

TOP MUSEUM

東京都写真美術館ニュース
eyes89

「アピチャポン・ウィーラセタクン
亡霊たち」展
Apichatpong Weerasethakul:
Ghosts in the Darkness

新年は2017.1.2(月・振休)より開館

eyes TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM
NEWS MAGAZINE / 2016 Vol.89

Apichatpong
Weerasethakul:
Ghosts
in the Darkness

総合開館20周年記念

「アピチャッポン・ウィーラセタクン 亡霊たち」展

Apichatpong Weerasethakul: Ghosts in the Darkness
インタビュー

ぼくは朝、目を覚ましていそいそと夢を書きとめる。夜のあいだ自分はいったい誰だったのか、突き止めてみたいのだ。

—アピチャッポン・ウィーラセタクン
(展覧会公式カタログより)

美しい光を放つ映像の中に潜む、夢、記憶、歴史、政治…。静謐で叙情的な映像世界に国内外から注目が集まる作家、アピチャッポン・ウィーラセタクン。日本の公立美術館で初開催となる本展を担当する田坂博子芸芸員に作品の魅力を聞きました。

アピチャッポン・ウィーラセタクンとはどんな作家なのでしょう。彼は、映画と現代アートの両方を手がけている作家です。1970年、タイのバンコクに生まれ、両親が医者という家庭環境で育ちました。タイの東北部イサーンのコー



《Ashes》2012 シングルチャンネル・ヴィデオ

ンケンという町で幼少期を過ごし、大学で建築を学んだ後、シカゴに留学して映画制作を学びました。2000年代からアートのインスタレーション作品を発表し始め、2010年に長編映画『ブンミおじさんの森』でカンヌ国際映画祭最高賞を受賞、世界にその名を広めました。劇場で公開される長編映画とアート作品は、彼の中で常に緩やかに繋がりながら、作家活動の基軸となっています。

本展のタイトルと、展示構成について教えてください。

「Ghosts in the Darkness」は、2009年に発表した自身の論考タイトルに由来します。本展における「亡霊」には二つの意味があります。ひとつは、写真や映像などのメディアを媒介することで作用する映像自体が持つ特性です。もうひとつは、現実社会で作用する目には見えない力です。彼の作品は、政治や歴史の中にモンスター

のような見えざる力が潜んでいると暗示しています。“メディアの亡霊”と“政治の亡霊”、この二つの意味を組み合わせることで、彼の作品を立体的に理解できるのではないかと思います。今回は当館のコレクション作品を中心に、「亡霊たち」をテーマに、アピチャッポン本人が本展のために選んだ作品で構成されています。彼は現場の空間や制約を考慮しながら、その場でしか体験できない展示づくりに徹底したこだわりを持っており、リニューアルした当館の展示室も入念に下見をしています。彼の創作の源流に触れていただけるようアーカイブ作品の紹介も致しますので、作家を初めて知る方も、きっとアピチャッポンのことを身近に感じることができると思います。



《Spaceship with Dog, Nabua, 2008》2013 発色現像方式印画

彼の作品は政治的だと言われることがあります。作品に通低する特徴とは。

彼自身は「政治的な作家ではない」と言っています。実際、彼の作品は社会的な問題を声高に訴えるものではありません。しかし、最近のタイ

の社会状況の変化が必然的に作品に反映され、作品の構造の中に政治的な背景が組み込まれているのです。タイは「微笑みの国」と呼ばれていますが、現実には第二次世界大戦後、20回以上ものクーデタが勃発し、政情不安定な面もあります。最近、国王の崩御により大きな変革期に置かれていますが、長きにわたって移民や女性など社会的に弱い立場の人たちが虐げられたこともありました。アピチャッポンは自身のセクシャル・マイノリティーであるという問題意識から長編映画を制作しています。

作品の中では、作家自身の幼少期の記憶にまつわる事柄が登場します。

アピチャッポンはこのように言って



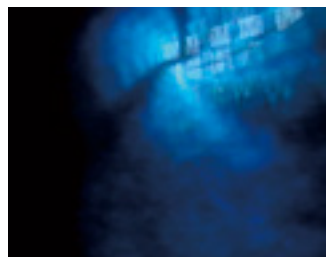
《Ghost Teen》2009 インクジェット・プリント

います。「本展では、初期作品から最新作にいたるまで、恋人や愛犬、両親、友人たちなど私を取り巻く個人的なつながりが映し出されています。そこに特別な主題はないのですが、すべては私の記憶なのです。それらもまた、目に見えなかったり見えたりする幽霊みたいなもので、決して形のあるものではなく常に変化しています」

アピチャップンの作品では記憶と物語が深く結びついているのです。本展を楽しみにしている方へ。「私の作品には、決まった見方は

ないし、何かの意味を理解する必要はありません。観客のみなさんには、まず作品を体験して、自分にとってピンとくるものがあれば、より深めていってほしいと思います」と本人が言うように、まずは写真、映像の美しさや、空間で光を体験する身体的な気持ちよさに身を委ねて、アピチャップンの映像世界に足を一歩踏み入れてみてください。そこから自身の抱える問題意識と向き合うきっかけを見つけていただけたらと思います。

(聞き手:上條桂子)



《Windows》1999 シングルチャンネル・ビデオ



《The Fire》2009 インクジェット・プリント



アピチャップン・ウィーラセタクン

1970年タイ・バンコク生まれ、同国チェンマイ在住。コーンケン大学で建築を学んだ後、シカゴ美術館付属シカゴ美術学校で映画制作を学ぶ。1999年、プロダクション「Kick the Machine Films」を設立。既存の映画システムに属さず、ドキュメンタリーとフィクションを往来する作品を多数発表。長編映画『ブンミおじさんの森』で2010年カンヌ国際映画祭パルムドール（最高賞）受賞。映画監督として活躍する一方、1998年以降、現代美術作家として映像インスタレーションを中心に旺盛な活動を行っている。

アピチャップン・ウィーラセタクン 亡霊たち

Apichatpong Weerasethakul: Ghosts in the Darkness

B1F 2016.12.13|火|- 2017.1.29|日|

タイ出身で、映像作家、映画監督として世界的に活躍するアピチャップン・ウィーラセタクン。タイの東北地方の伝説や民話、森の記憶や夢などを題材に、静謐かつ叙情的な映像作品で高い評価を受けてきました。その作品は、写真やフィルム、ビデオ、インスタレーション、長編映画など多岐にわたり、人間の深淵を浮かび上がらせていく一方で、移民や格差、政治などの社会問題にも密接に関わっています。本展は、国内の公立美術館で初個展となります。

| 関連イベント シンポジウム「映像の不可視性をめぐって」

2016.12.18(日) 15:00-17:30 英日通訳付

[出演] アピチャップン・ウィーラセタクン(出品作家)
四方田犬彦(映画研究者)、富田克也(映画監督)、
相澤虎之助(映画監督/脚本家)。

[会場] 東京都写真美術館 1階ホール

[定員] 190名(整理番号順入場/自由席/当日10時より1階ホール受付で入場整理券を配布します)

| 担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日16:00および2017年1月3日(火)16:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

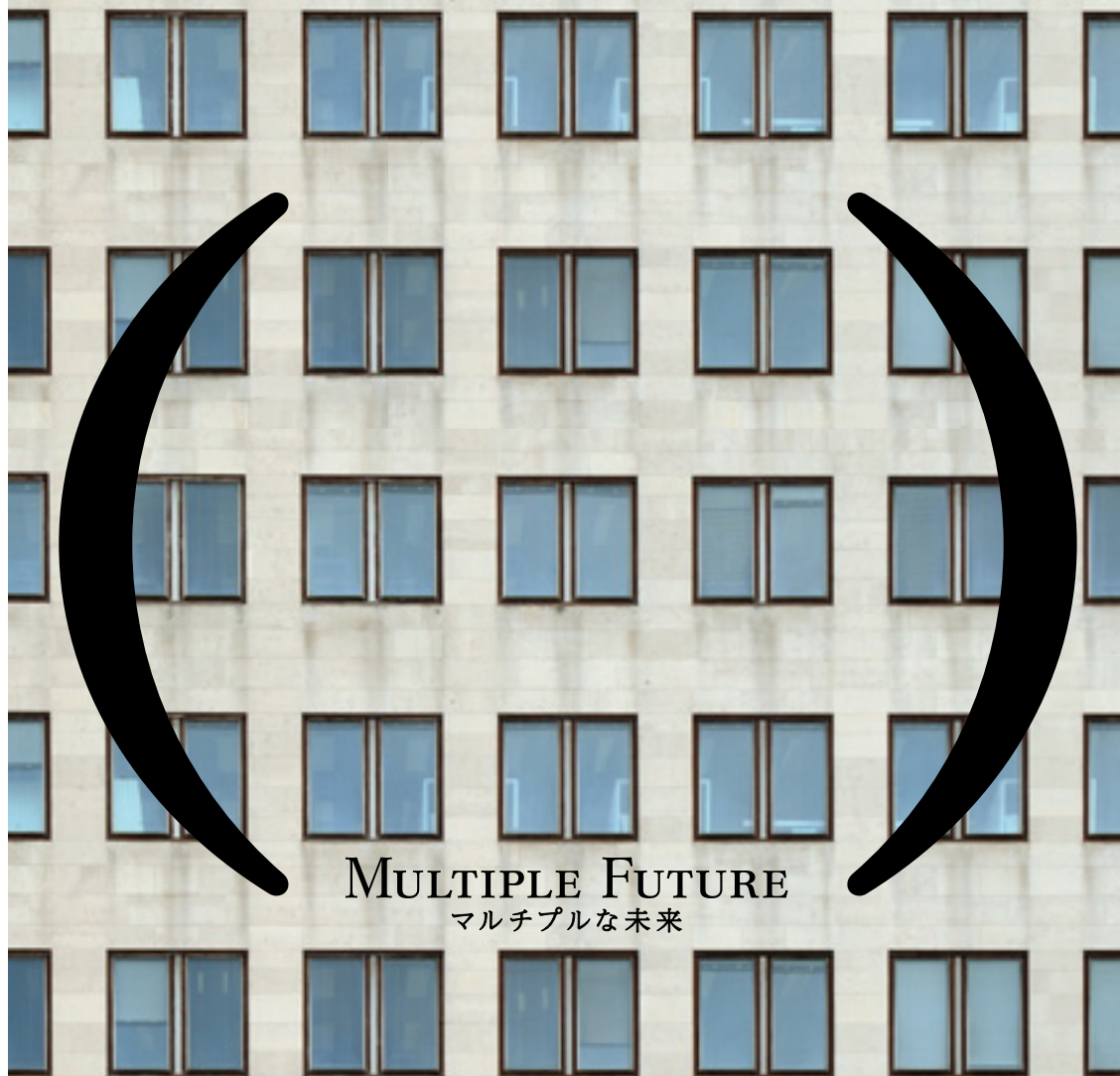
上映「アピチャップン本人が選ぶ短編集」の詳細はP11へ

[主催] 東京都 東京都写真美術館/産経新聞社 [助成] 公益信託タカシマヤ文化基金 [協賛] SHISEIDO / [後援] タイ王国大使館 [観覧料] 一般 600(480)円/学生 500(400)円/中高生・65歳以上 400(320)円 ※()は20名以上の団体料金

総合開館20周年記念

第9回恵比寿映像祭

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2017



MULTIPLE FUTURE
マルチプルな未来

Friday, 2/10 - Sunday, 2/26 / 2017 [15days / Closed on Mondays]

平成29年2月10日(金)~2月26日(日)《15日間・月曜休館》

会場 / 東京都写真美術館、日仏会館、ザ・ガーデンルーム、恵比寿ガーデンプレイス センター広場、地域連携各所 ほか
時間 / 10:00~20:00 ※最終日は18:00まで 入場 / 無料 ※定員制のプログラム(上映、ライブ、レクチャーなど)は有料

[主催] 東京都/東京都写真美術館・アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)/日本経済新聞社
[共催] サッポロ不動産開発株式会社/公益財団法人日仏会館 [後援] オーストラリア大使館/オーストラリア大使館・オーストラリア文化フォーラム/J-WAVE 81.3FM [協賛] ANA/東京都写真美術館支援会員 [協力] KyotoDU/ぴあ株式会社/ドゥービー・カンパニー株式会社/株式会社トリプルセブン・インタラクティブ/株式会社ロボット

TOP MUSEUM
東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

総合開館20周年記念

東京・TOKYO 日本の新進作家vol.13

Tokyo Tokyo and TOKYO: Contemporary Japanese Photography vol.13

2F 2016.11.22|火|- 2017.1.29|日|



《STREET RAMBLER》より 2015年

中藤毅彦 NAKAFUJI Takehiko 1970年東京生まれ

シリーズ《STREET RAMBLER》より 53点 2011年

そこには闇と光が交差し、当て所無い人々が彷徨い歩く、混沌として静かに沈んで行く様な東京の姿があった。おそらく、2011年の大震災という未曾有の出来事に大きな衝撃を受け、人生観や死生観の幾ばくかが変わった事が写真にも作用しているのだと思う。

- ・作家名
- ・出品予定作品名
- ・作家自身によるステイトメントより(抜粋)

当館では、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の場となるよう、毎年異なるテーマを決めて「日本の新進作家」展を開催しています。シリーズ第13回目となる本展は、「東京」がテーマです。19世紀に写真技術が輸入されてから、多くの写真師、写真家によって記録、表現されてきた東京。本展は6人の新進作家による「今」の東京を提示します。

関連イベント 《作家とゲストによる対談》

2016.11.26(土)元田敬三×石川竜一、11.27(日)小島康敬×小林美香
12.4(日)田代一倫×倉石信乃、12.10(土)中藤毅彦×原原桂一
12.11(日)佐藤信太郎×大西みつぐ、12.23(金・祝)野村恵子×石川直樹
[日時] 各回14:00-15:30 [定員] 各回50名
[会場] 東京都写真美術館 2階ロビー
※当日10時より1階総合受付にて整理券を配布します。

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2、第4金曜日14:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/東京新聞 [助成] 芸術文化振興基金 [協賛] 凸版印刷株式会社/東京都写真美術館支援会員 [協力] 株式会社カシマ/金丸真株式会社/キヤノンマーケティングジャパン株式会社/有限会社東京カラー工芸社/株式会社西村カメラ
[観覧料] 一般 700(560)円/学生 600(480)円/中高生・65歳以上 500(400)円 ※()は20名以上の団体料金



《Tokyo》2013年

小島康敬 KOJIMA Yasutaka
1977年東京都生まれ

《Tokyo》14点 2013年

この作品は未来の人がこの時代の記憶をどのように語るのかに想いを馳せながら、けっして均質でない無機質でどこか唾っばくもある、東京の都市の表層を撮影したものだ。



《2014年5月12日》千代田区 2014年

田代一倫 TASHIRO Kazutomo
1980年福岡県生まれ

42点 2014-15年

バイトの休憩中に、同僚を撮影し始めた。(中略)彼らは、私のことを「写真を撮る人」として認識してくれる。見るというより、見返されることを喜びとしていたのではないかとさえ思う。それを繰り返すと、写真を撮るためだけの目的で東京を歩けるようになった。



《OPEN CITY》より 2013年

元田敬三 MOTODA Keizo
1971年大阪府生まれ

シリーズ《OPEN CITY》より 23点 2009-16年
シリーズ《ツッパルな》より 26点 2011-16年
写真家として、競争という写真界の空気の中で、経済性は保護されず欠如するという状況の中、だからこそそいつになっても変わることなく慎ましくも豊かに写真に向かえたことへの感謝。ツッパルなと言いつつも、東京へ写真へ向かうと試みた作品である。



野村恵子 NOMURA Keiko
兵庫県生まれ

シリーズ《A Day in The Life》より 35点
2001-16年

秋がきて、冬を越え、春になれば、また桜は見事に咲き誇り、季節は繰り返され繰り返され、巡りくる。変わらないであろう循環がある。此処にあるその光りに、幸せに、痛みに、傍にいる身体に、今の生を感じてみる。心に映った光景を記憶したい、撮りたいと衝動することは、ある本能に添う行為でしかない。

《A Day in The Life》より 2012年



佐藤信太郎 SATO Shintaro
1969年東京都生まれ

シリーズ《東京|天空樹》より 11点
2009-16年

「東京|天空樹」は、都市を見るための装置として東京スカイツリーを位置付け、東京を記録したシリーズだ。スカイツリーを介して見えてくる東京特有の雰囲気や、人間の営みを捉えている。

《2016年5月15日 台東区浅草》2016年

総合開館20周年記念

TOPコレクション 東京・TOKYO

TOP Collection:
Tokyo Tokyo and TOKYO

3F 2016.11.22|火|-2017.1.29|日|

当館の収蔵作品は、33,393点*(国内写真作品21,671点 海外写真作品5,633点 映像作品資料2,367点 写真資料3,722点)にのぼり、世界でも有数のコレクションを誇っています。館の愛称にちなんで新しく「TOPコレクション」と題して開催する本展では、「東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する」という、当館の収集方針の一つのもとに集められた作品の中から選りすぐられた約150点をご紹介します。写真家たちは、この多層的な都市「東京」とどのようなアプローチで対峙し、どのような視点で切り取り、何を表現しようとしたのでしょうか。本展では戦後から現代の作品を中心に紹介いたします。

※平成28年3月末現在



7 本城直季《東京タワー 東京 日本 2005》〈Small Planet〉より 2005年



7 林ナツミ《Today's Levitation 02/21/2011》2011年



2 荒木経惟〈写真論〉より 1988-1989年



5 ホンマタカシ〈東京郊外〉より《少年4 相模大野、神奈川》1996年



6 清野賀子《隅田川、東京》〈Emotional Imprinting〉より 1996年



4 朝海陽子《ホームアローン、東京》〈sight〉より 2007年



4 中野正貴《Ichinohashi Jct. Minato-ku, May 1999》〈TOKYO NOBODY〉より 1999年

展示構成

展示は7つのパートに分かれて
さまざまな作品を紹介します

1 街角で

人々の姿を、街の様子を、そして、東京を離れた外側の目で、様々な視点で切り取った作品から浮かび上がる東京の姿。

2 路地裏で

華やかさの裏側の、とても生々しく、ディープで、よりリアルな現実。

3 東京エアポケット

都会の喧噪のなかで、そこだけ別の時間が流れている都会のエアポケットのよう。

4 見えないものを覗き見る

「そのときしか見られない」とか「誰でもが見ることができるわけではない」となると、見たいと思うのが人の心理であり、記録したいと思うのが写真家なのかもしれません。

5 境界線の拡大、郊外・サバービア

東京の郊外が拡大し、行政上の区分としての東京とは異なる境界線があるようです。

6 どこでもない風景

東京は特別な意味をもたない、ただそこにある場所。

7 多層的都市・東京と戯れる

まるで東京と戯れるように、軽やかに自由な手法での表現を試みています。

担当芸員によるギャラリートーク

会期中の第1、第3金曜日16:00および2017年1月3日(火)11:30より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

関連イベント 《対話による鑑賞プログラム》

出品作品に写っているものについて参加全員で対話しながらじっくり鑑賞したあと、簡単な暗室での制作を行います。※作品解説ではありません
[日時] 2016.12.4(日)、2017.1.15(日)いずれも10:30-12:30
[対象] 小学生 [定員] 各日20名(事前申込制)
[参加費] 500円 ※詳細はホームページをご覧ください

出品予定作家

石元泰博、大西みつぐ、鬼海弘雄、児玉房子、高梨豊、田中長徳、土田ヒロミ、東松照明、林忠彦、三木淳、山内道雄、レオ・ルビンファイン、荒木経惟、倉田精二、森山大道、朝海陽子、伊奈英次、北島敬三、鳥尾伸三、瀬戸正人、中野正貴、宮本隆司、尾仲浩二、富山治夫、林隆喜、山本紉、秋山忠右、小林のりお、榎橋朝子、ホンマタカシ、須田一政、清野賀子、鷹野隆大、花代、糸崎公朗、佐藤時啓、奈良原一高、西野壮平、畠山直哉、林ナツミ、本城直季

【主催】 東京都 東京都写真美術館 / 東京新聞 【協賛】 凸版印刷株式会社

【観覧料】 一般 500(400)円 / 学生 400(320)円 / 中高生・65歳以上 250(200)円 ※ () は20名以上の団体料金

総合開館20周年記念
山崎博 計画と偶然

Yamazaki Hiroshi: Between Concepts and Incidents

2F 2017.3.7|火|- 5.10|水|



左右とも〈OBSERVATION 観測概念〉より1974年

山崎博は「いい被写体を探して撮る」ことへの疑いから、「被写体を選ばずに撮る」ことを模索しました。そして、自宅の窓のような制約のある風景、特徴のない単純な海景といった被写体を選び、あるフレームを設けた中で方法的な探求を行うスタイルに行き着きました。計画性(フレーム)にもとづく制作と、撮影行為の中で起こる偶然の要素。山崎は「計画がなければ偶然もない」と言います。

本展では初期の写真シリーズ《Early Works》をはじめ、代表的な写真作品群、また写真と並行して作家が追究してきた映像作品、未発表作品、再制作による作品などを取り上げ、現代のコンセプト的な写真・映像の先駆者・山崎博の歩みを今日的な視点から通覧します。

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2、第4金曜日14:00より 展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

展示構成 《出品点数約200点を予定》

《EARLY WORKS》より 1969-1974年
写真家として活動をはじめた時期の作品シリーズ。

《OBSERVATION 観測概念》より 1974年

映画作品《HELIOGRAPHY》16ミリ・フィルムのオリジナルからのデジタル上映/5分 1979年
写真作品《HELIOGRAPHY》より 1978年
水平線上の太陽を長時間露光によって撮影した代表的シリーズ。同名の映画作品では、太陽の動きを日没から日の出まで捉えている。

《櫻》より 1989年
90年代以降の桜を被写体とするシリーズのひとつ。テレコンバーターを用いた超望遠レンズによって、太陽を背後とする桜を捉えている。

《無題(水のフォトグラム)》より 2016年

関連イベント

決定次第ホームページでお知らせします。

【主催】東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会
【観覧料】一般 600(480)円／学生 500(400)円／中高生・65歳以上 400(320)円 ※()は20名以上の団体料金

総合開館20周年記念
夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史
総集編

Dawn of Japanese Photography: The Anthology

3F 2017.3.7|火|- 5.7|日|

当館では、2006年度より隔年で、日本全国の美術館、博物館、資料館などの公開機関を有する施設が所有する幕末～明治期の写真・資料を調査し、体系化する展覧会「知られざる日本写真開拓史」シリーズを開催してきました。本年度は、10年以上におよぶ調査の総仕上げとして「総集編」を開催します。

幕末の開国と時を同じくして、日本にもたらされた写真。芸術作品に用いられる以前、つまり、美術館にとって「夜明け」となる以前の写真は、いったいどのようなものだったのでしょうか。そして、それらに作品性は宿るのでしょうか。江戸時代末期の日本において「写真」は、西洋技術の象徴でした。横浜や長崎などが開港し、訪日する外国人写真師との関わりから、江戸の鶴岡玉川や開港地の上野彦馬・下岡蓮杖など、日本人の写真師が各地に現れます。そして、西洋的近代化へ向かうとともに、その技術はさらに次の世代へと伝承されていきました。本展では、現存する貴重なオリジナルの写真作品・資料を〈であい〉〈まなび〉〈ひろがり〉の三部構成で展覧します。

出品予定作品

当館収蔵作品および協力機関である日本大学芸術学部の収蔵作品のほか、日本全国の公開機関を持つ施設への収蔵調査によって選ばれた優品群を出品します。イメージではなく「物」として存在するオリジナルとともに、台紙裏面のデザインを鑑賞できる立体的な展示や、写真帖の全内容を投影展示。写真に関わる版画、写真機材、書簡なども合わせて紹介します。

【主催】東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会 【協賛】ライオン／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜
【協力】日本大学芸術学部
【観覧料】一般 700(560)円／学生 600(480)円／中高生・65歳以上 500(400)円 ※()は20名以上の団体料金



《(松平忠礼の妻、豊子像)》(山内家写場) 1875-1880年頃

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1、第3、第5金曜日14:00および2017年5月3、4、6、7日14:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

関連イベント 国際シンポジウム「幕末」(仮称)

【日時】2017.3.26(日)15:00-18:00予定

【会場】東京都写真美術館1階ホール

【ゲスト】クリスチャン・ポラック(明治大学政治経済学部客員教授)、ルーク・ガートラン(セント・アンドリュース大学教授)、セヴァスティアン・ドブソン(初期写真研究家)、ダレス・フィリップ(チューリッヒ大学文化人類学研究所)、范如苑(台南国立大学アニメーションメディアデザイン大学院 専任講師)、高橋則英(日本大学芸術学部教授)

参加方法などの詳細は、決定次第ホームページでお知らせします。

APAアワード2017

第45回公益社団法人日本広告写真家協会公募展

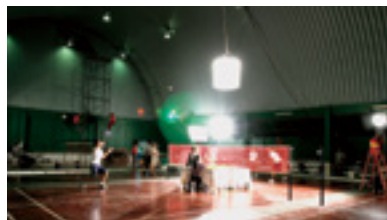
(第八回『全国学校図工・美術写真公募展』併設)

B1F 2017.3.4|土|-3.19|日|

実際の広告として世の中に流通した作品を募集する「広告作品部門」と、写真家の新たな表現への挑戦を募集する「写真作品部門」の2部門の作品を展示します。

[主催] 公益社団法人日本広告写真家協会
[共催] 東京都写真美術館 [後援] 経済産業省/文化庁/東京都
[観覧料] 一般500(400)円/学生・高・65歳以上300(240)円
中学生以下無料 ※()は20名以上の団体料金

1F HALL / 上映



《国家 The Anthem》2006 5'



《幽霊の出る家 Haunted Houses》2001 60'



《0116643225059》1994 5'19"

アピチャップン本人が選ぶ短編集

本誌巻頭で紹介した「アピチャップン・ウィーラセタクン 亡霊たち」展の開催期間中に、作家のアピチャップン本人が選んだ自身の短編作品を上映します。本邦初上映作品を含む、本展の為だけの特別プログラムをお楽しみください。



《メコンホテル Mekong Hotel》2012 56'13"



《エメラルド Emerald》2007 11'

[上映期間] 2016.12.13(火)-2017.1.5(木) 【休映日】毎週月曜日及び12.29(木)-2017.1.1(日・祝)
[上映スケジュール] 上映19:00(開場18:45) ただし、2017年1月2日(月・振休)、3日(火)のみ13:00から上映。詳細は当館ホームページまたは本展チラシをご覧ください。
[料金:当日券プログラムにつき] 一般1,500円、学生1,200円、中高生1,000円、65歳以上1,000円、障がい者手帳をお持ちの方1,000円、リピーター割引1,000円(本プログラム当日券または「アピチャップン・ウィーラセタクン 亡霊たち」展のチケット提示)

『ミュージズ・アカデミー』 ホセ・ルイス・ゲリン監督特集上映「ミュージズとゲリン」

監督独自の美しい映像と言葉で描かれる、知的なのにユーモラス、時にエロティックな、今まで見たことがないようなフィクション・ドキュメンタリーです。

[上映期間] 2017.1.7(土)-1.29(日) 【休映日】毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)
[上映時間] 変則スケジュールのため<http://mermaidfilms.co.jp/muse/>にてご確認ください。
[料金] 一般1,800円、学生1,500円、シニア・中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方1,000円
[各種割引] 当日一般料金が割引になります。
当館パスポート会員(会員証提示)1,500円、当館での展覧会、映画の半券持参者(半券1枚につき一回の割引)1,500円、三越カード・伊勢丹カード、アトレビュー-Suicaカード会員(会員証提示)1,500円、夫婦50割引(どちらかが50歳以上、お二人揃ってご購入の場合)2人で2,200円

その他、映画の詳細は公式サイトをご確認ください。
<http://mermaidfilms.co.jp/muse/>

TOP NEWS / お知らせ

1F STUDIO スタジオ



1階スタジオが新しくなりました

ワークショップやスクールプログラムを開催する1階スタジオが、創造性あふれる空間に生まれ変わりました。大きな木の机が並んだワークスペースや、14台の引き伸ばし機を備えた暗室で、あなたも「作る」「考える」楽しさを体験してみませんか。募集中のプログラムや、学校の教育活動の申請手続については、当館ホームページをご覧ください。

詳細はこちら



4F LIBRARY 図書室



図書室の閲覧スペースがリニューアル

4階図書室では、写真集を中心に、展覧会カタログ、写真評論・写真史・映像史に関する図書、専門雑誌など国内外の資料約10万冊を収集し、一般に公開しています。閲覧は図書室内のみとなります。

開室時間10:00-18:00 閲覧無料、コピー有料。
閉架資料の請求・コピーサービス
10:00-11:30/13:00-17:30(ただし、火・水は10:00-17:30)
※蔵書は当館ホームページからも検索できます

詳細はこちら



『東京都写真美術館総合開館20周年史』発売中

1990年の一次施設開館と、1995年の総合開館からこれまでに開催した全展覧会の紹介や、収蔵作家一覧、各担当芸員のテキストなどを掲載しています。

ミュージアム・ショップ ナディッフ バイテンにて発売
B5判 535ページ 6,800円(税込)

新年は2017.1.2(月・振休)より開館!

イベント等の詳細は、決定次第ホームページでお知らせします。ご来館をお待ちしております。
開館時間(入館は閉館の30分前まで)
2017.1.2(月・振休)11:00-18:00 展覧会の観覧無料
2017.1.3(火)11:00-18:00 展覧会の観覧が2割引
2017.1.4(水)以降は通常どおりに開館します。
※ただし、4F図書室は1月5日(木)より開室します。

2F SHOP

ミュージアム・ショップ

NADIFT
BAITEN

TOP MUSEUMのオリジナルグッズを好評発売中です。

鉛筆	100円	ピンホールカメラ	1,400円
クリアファイル	194円	Tシャツ	2,160円
キャンディ	500円	トートバッグ	2,160円

(価格はすべて税込)

詳細ページは
▼こちら



営業時間／10:00-18:00(木・金は20:00まで)
TEL／03-6447-7684
定休日／毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は営業。翌平日休館。)



1F CAFE

カフェ

MAISON ICHI
BOULANGER-PÂTISSIER-TRAITEUR-CHARCUTIER

LUNCH MENU (11:30-15:00)

ズワイ蟹とブロッコリーのキッシュ	1,080円
スベルト小麦田舎パンのクロックマダム	1,080円
自家製サーモンマリネのシーザーサラダ	1,080円
自家製ローストビーフ&デリプレート	1,296円

※自家製パンがつかます(おかわり自由) (価格はすべて税込)

その他のメニューは
▼こちら



営業時間／10:00-20:00 TEL／03-6277-3862
定休日／毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は営業。翌平日休館。)



支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

《特別賛助会員》

キヤノン(株)
(株)資生堂
全日本空輸(株)
(株)ニコン

《特別支援会員》

キヤノンマーケティングジャパン(株)
大日本印刷(株)
凸版印刷(株)
富士ファイル(株)
(株)リコー

《支援会員》

(株)I&S BBDO
アオイネオン(株)
(株)AOI Pro.
(株)アサソー ディ・ケイ
旭化成(株)
朝日新聞社
(株)朝日新聞出版
朝日生命保険(相)
アサヒグループホールディングス(株)
アスクル(株)
(有)アスペン/POLARIS
(株)アートよみうり
(株)アマナ
(株)岩波書店
ウェスティンホテル東京
(株)潮出版社
内田写真(株)
(株)栄光社
(株)エスジー
(株)ADKアーツ
(株)NHKアート
NHK営業サービス(株)
(株)NHKエデュケーショナル
(株)NHKエンタープライズ
(株)NHKグローバルメディアアサービズ
(株)NHK出版
(株)NHKビジネスクリエイト
(株)NHKメディアテクノロジ
NTT都市開発(株)
エプソン販売(株)
エルメス財団
オリックス(株)
オリンパス(株)
(株)オンワードホールディングス
花王(株)
カンオ計算機(株)
鹿島建設(株)
(株)KADOKAWA
カトーレック(株)

神奈川新聞社
(株)キクチ科学研究所
(株)キタムラ
キッコーマン(株)
(株)紀伊國屋書店
ギャラリー小柳
共同印刷(株)
(一社)共同通信社
協和発酵キリン(株)
(株)久米設計
興亜硝子(株)
(株)弘亜社
(株)廣濟堂
(株)講談社
(株)光文社
(株)国書刊行会
(株)コスモスインターナショナル
(株)コーセー
コダック(同)
コダックアラリスジャパン(株)
小山登美夫ギャラリー(株)
(株)ザ・アール
サッポロ不動産開発(株)
サッポロホールディングス(株)
三機工業(株)
(有)産経新聞社
サントリーホールディングス(株)
(株)サンライズ
(株)ジェイアール東日本企画
JSR(株)
JXホールディングス(株)
ジェイティービー印刷(株)
(株)シグマ
(株)実業之日本社
東京急行電鉄(株)
信濃毎日新聞社
(株)写真弘社
写真の学校／東京写真学園
チャンネル(株)
(株)集英社
(株)主婦と生活社
(株)主婦の友社
(株)小学館
松竹(株)
信越化学工業(株)
(株)新潮社
(株)スタジオアリス
(株)スタジオエムジ
(株)スタジオアブリ
スターツ出版(株)
住友化学(株)
住友生命保険(相)
(株)スリーポンド
(株)生活の友社
セイコーホールディングス(株)
(株)青春出版社

成美製版(株)
積水ハウス(株)
ソニー(株)
損害保険ジャパン日本興亜(株)
第一生命保険(株)
第一法規(株)
(株)ダイケンビルサービス
大成建設(株)
(株)大丸松坂屋百貨店
大和証券(株)
(有)タカ・インギャラリー
高砂熱学工業(株)
(株)高島屋
(株)宝島社
(株)竹中工務店
玉川大学芸術学部
(株)タムロン
(株)丹青社
千葉商科大学政策情報学部
(株)中央公論新社
中外製薬(株)
帝人(株)
(株)TBSテレビ
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)
(株)テレビ朝日
(株)テレビ東京
電源開発(株)
(株)電通
東亜建設工業(株)
東映(株)
東急建設(株)
東京海上日動火災保険(株)
(株)東京急行電鉄(株)
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
東京スタデオ
東京造形大学
東京総合写真専門学校
東京テアトル(株)
東京都競馬(株)
(株)東京ドーム
(株)東京ニュース通信社
(株)東京美術倶楽部
(学)専門学校 東京ビジュアルアーツ
東京メトロポリタンテレビジョン(株)
(株)東芝
東宝(株)
(株)東北新社
(株)スリーポンド
東洋熱工業(株)
(株)トキワ
(株)徳間書店

戸田建設(株)
(株)トータルプランニング
オフィス
トヨタ自動車(株)
(株)トロンマネージメント
(株)ニコンイメージングジャパン
日外アソシエーツ(株)
日油(株)
日活(株)
(株)日経BP
日光ケミカルズ(株)
日産自動車(株)
(株)日本カメラ社
日本空港ビルデング(株)
日本経済新聞社
(株)日本広告社
(公社)日本広告写真家協会
日本コルマー(株)
(株)日本色材工業研究所
日本写真印刷(株)
(公社)日本写真家協会
(公社)日本写真協会
日本写真芸術専門学校
(一社)日本写真文化協会
日本大学芸術学部
日本たばこ産業(株)
日本テレビ放送網(株)
(株)ニッポン放送
日本ロレックス(株)
(株)ニューアートディフュージョン
ノーリツ鋼機(株)
(株)博報堂
(株)博報堂DYメディアパートナーズ
(株)博報堂プロダクツ
(株)バス・コミュニケーションズ
(株)ハースト婦人画報社
パナソニック(株)
(株)パラゴン
パリ ミキ
びあ(株)
ビービーメディア(株)
北海道 写真の町東川町
東日本旅客鉄道(株)
光写真印刷(株)
(株)美術出版社
(株)日立物流
(株)ビックカメラ
(株)ビデオプロモーション
ヒノキ新薬(株)
(株)ピラミッドフィルム
(株)ファーストリテイリング
(株)フェドラ
富国生命保険(相)

富士重工業(株)
(株)フジテレビジョン
(株)双葉社
(株)プラザクリエイト
(株)プリンスホテル
(株)フレームマン
(株)文化工房
(株)文藝春秋
(株)ベネッセホールディングス
ベルボン(株)
北海道新聞社
(株)ホテルオークラ東京
(株)堀内カラー
本田技研工業(株)
毎日新聞社
(株)マガジンハウス
丸善(株)
マルミ光機(株)
(株)マンダム
(株)みずほ銀行
三井住友海上火災保険(株)
(公社)三井住友信託銀行(株)
三井倉庫ホールディングス(株)
三井不動産(株)
(株)三越伊勢丹 三越恵比寿店
三菱地所(株)
三菱製紙(株)
三菱倉庫(株)
三菱電機(株)
三菱UFJ信託銀行(株)
(株)ミルボン
武蔵大学
(株)博報堂
明治安田生命保険(相)
森ビル(株)
ヤマトロジスティクス(株)
横河電機(株)
(株)吉野工業所
(株)ヨドバシカメラ
読売新聞社
ライオン(株)
ライカカメラジャパン(株)
リコーイメージング(株)
リシュモン ジャパン(株)
モンブラン
(株)良品計画
(株)ロボット
(株)ワコウ・ワークス・オブ・アート
(株)ワコール
(株)ワッツ オブ トーキョー

(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人、(公社)=公益社団法人
(同)=合同会社、(一社)=一般社団法人

(平成28年10月現在・五十音順)

SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、
topmuseum.jpまたはこちらへ▶



	3F	2F	B1F	1F
2016 11			第17回上野彦馬賞 11.26(土)~12.4(日)	追憶 11.5(土)~12.11(日)
12	総合開館20周年記念 TOPコレクション 東京・TOKYO (収) 11.22(火)~2017.1.29(日)	総合開館20周年記念 東京・TOKYO 日本の新進作家vol.13 11.22(火)~2017.1.29(日)	総合開館20周年記念 アビチャップン・ ウィーラセタタン 亡霊たち (収) 12.13(火)~2017.1.29(日)	ホライズン 11.12(土)~12.11(日) アビチャップン 本人が選ぶ短編集 12.13(火)~2017.1.5(木)
2017 1				マリア・カラス 伝説のオペラ座ライブ 12.13(火)~2017.1.6(金)
2	第9回 恵比寿映像祭 2017.2.10(金)~2.26(日)			創造と神秘の サグラダ・ファミリア 12.13(火)~12.17(土) 12.20(火)、12.22(木)、12.24(土)
3	総合開館20周年記念 夜明けまえ	総合開館20周年記念 山崎博 計画と偶然 (収)	APAアワード2017 2017.3.4(土)~3.19(日) 長倉洋海	聖なる呼吸: ヨガのルーツに出会う旅 12.13(火)~12.17(土)、12.21(水) 12.23(金・祝)、12.25(日)
4	知られざる日本写真開拓史 総集編 (収) 2017.3.7(火)~5.7(日)	2017.3.7(火)~5.10(水)	2017.3.25(土)~5.14(日)	ミュージック・アカデミー 2017.1.7(土)~1.29(日)
5				第9回 恵比寿映像祭 2017.2.10(金)~2.26(日)

(収)「ぐるっとバス 2016」対象の展覧会 「ぐるっとバス 2016」の詳細はこちら▶



割引料金について

展覧会を割引料金にてご観覧いただけます

1. 20名以上の団体のお客様 観覧料が2割引
2. 各種会員の方 観覧料が2割引
□アトレビュー・Suicaカード
□MIカード(三越伊勢丹グループのクレジットカード)
□ウエルカムカード(訪日外国人向けの割引カード)
□当館映画鑑賞券提示者
□財団他館友の会、年間バスポート会員
□JR東日本「大人の休日倶楽部」カード
3. 親子ふれあいデー(毎月第3土曜日と引き続き日曜日が対象)
観覧料が5割引
□都民で18歳未満のお子様を連れてご家族が対象です。
※詳しくはお問い合わせください。

割引対象

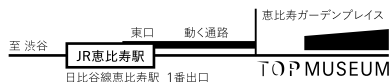
展覧会を無料でご観覧いただけます

1. □小学生以下
□障がい者手帳提示者及びその介護者(2名まで)
□被爆者手帳提示者及びその介護者(2名まで)
□愛の手帳・療育手帳提示者及びその介護者(2名まで)
□精神障害者福祉手帳提示者及びその介護者(2名まで)
□東京都内の中学生
※教育活動(スクールプログラムなど)で当館をご観覧希望の生徒と引率者は事前申告が必要です。
当館までお問い合わせください。
2. シルバーデー(毎月第3水曜日)
□65歳以上の方 ※証明できるものの提示が必要です

無料対象

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099 topmuseum.jp

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

開館時間 10:00~18:00(木・金は20:00まで)。ただし2017年1月2日(月・振休)・3日(火)は11:00~18:00 入館は閉館の30分前まで
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌平日休館。ただし1月3日(火)は開館)、年末年始(12月29日~1月1日
※4F図書室は1月4日まで)、1月30日(月)~2月9日(木)、2月27日(月)~3月3日(金)

東京都写真美術館ニュース「アイズ16」89号 □発行日:2016年11月21日/企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係 □印刷・製本:株式会社公栄社 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2016 □本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、原則として消費税込みの価格です。事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。